

# ジーラスタ<sup>®</sup>皮下注3.6mg ボディーポッド

〈ご使用になる患者さん用リーフレット〉

## デバイス設置日時

月 日 午前・午後 時 分

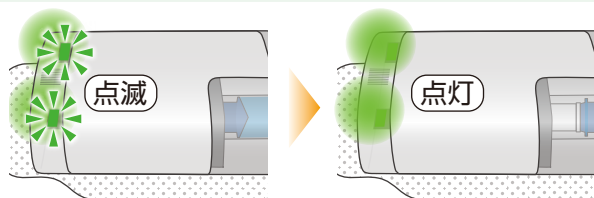
## デバイス取り外し目安日時

必ず薬液投与終了を確認した後に取り外してください(9ページ参照)。  
取り外しが可能になる目安はデバイス設置から  
27.5時間～28.5時間後です。

月 日

午前・午後 時 分～ 時 分

薬液投与が終了すると表示ランプが緑色の点滅から緑色の点灯に変わります。



本リーフレットの内容は動画でもご覧いただくことが可能です。  
下記URL・二次元コードによりご視聴ください。

**URL** [https://www.kyowakirin.co.jp/patients/product\\_user/g-lasta/index.html](https://www.kyowakirin.co.jp/patients/product_user/g-lasta/index.html)



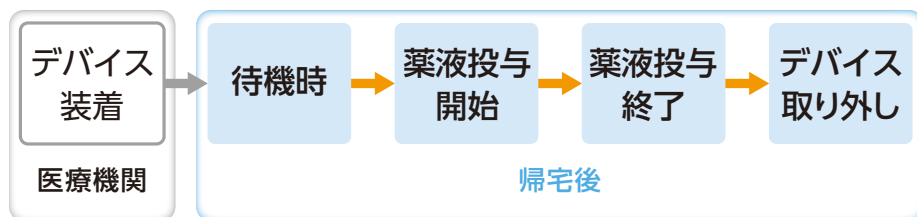
ジーラスタ<sup>®</sup>皮下注3.6mgボディーポッドは、タイマーを備えた体に貼るタイプの医薬品自動投与デバイスです。

## 〈目次〉

■ デバイスの動作と取扱いの全体の流れ	2
■ デバイス各部の名称	3
■ 投与するデバイスの表示とデバイスの状態	3
■ トラブル時の対処方法	4
待機時および薬液投与時	4
投与終了後	4
トラブル事例	5
■ デバイスの使用中および保管方法の注意事項	6
待機時および薬液投与時	6
投与終了後	7
保管および返却時	7
■ 使用方法	8
待機時	8
薬液投与開始	9
薬液投与終了	9
取り外し	10
取り外し後	12

ジーラスタ®皮下注3.6mgポディーポッドは、  
タイマーを備えた体に貼るタイプの医薬品自動投与デバイスです。

## デバイスの動作と取扱いの全体の流れ



# デバイス各部の名称

デバイスの動作と  
取扱いの全体の流れ

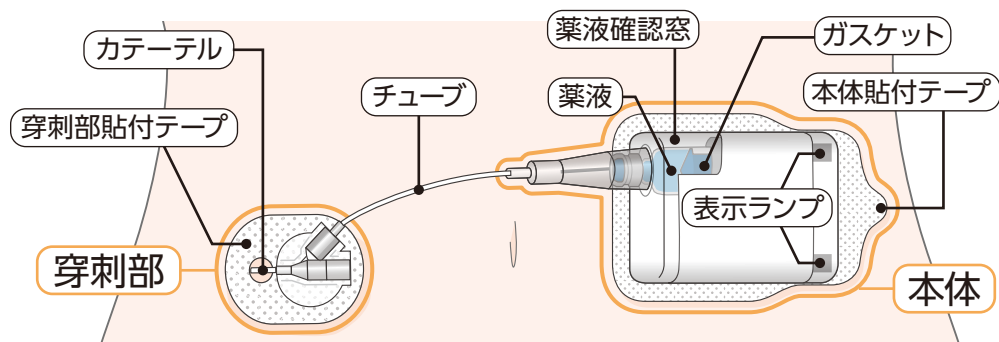
デバイス各部の名称

投与するデバイスの  
表示とデバイスの状態

トラブル時の対処方法

デバイスの使用中および  
保管方法の注意事項

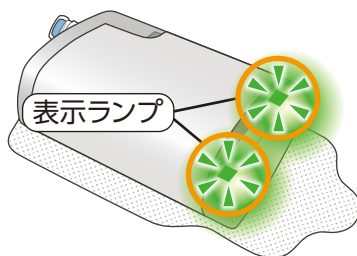
使用方法



## 投与するデバイスの表示とデバイスの状態

からだに装着されたデバイスは、約27時間後に自動的に薬液の投与を開始します（投与時間は約24分）。

デバイスの表示ランプを確認し、正常な状態か確認してください。



### ●表示ランプが緑色の場合 正常な状態です。

表示ランプ	状態
■ 点灯	待機中①（電源を入れてから約20分間）
⦿ 遅い点滅（3秒毎に1回点滅）	待機中②（待機中①から投与開始まで）
⦿ 早い点滅（1秒毎に2回点滅）	投与中（約24分間）
■ 点灯	投与完了（投与完了から約6時間）

### ●表示ランプが赤色の場合 トラブルが発生しています。

表示ランプ	状態
☀ 早い点滅（2秒毎に2回点滅）	トラブル発生 医療機関に連絡してください。

# トラブル時の対処方法

## 待機時および薬液投与時

- 薬液投与完了前に本体や穿刺部が外れた場合  
自ら装着部位の貼り替えや再装着は行わず直ちに医療機関に連絡してください
- 表示ランプが赤色の場合
- じんま疹、息苦しさ、めまいなどのアレルギー症状や、かゆみ、倦怠感など体調に懸念が生じた場合  
デバイスを取り外して、直ちに医療機関を受診してください
- デバイス設置日時(表紙参照)から28時間が過ぎても投与が開始されない場合  
デバイスが正常に作動していない可能性があります

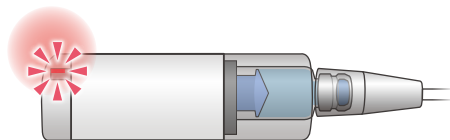
## 投与終了後

- デバイスの取り外し時に止血をしても出血が止まらない場合  
(11ページの3参照)
- ガスケットが途中で止まっている場合(12ページの6参照)  
必要量が投与できていない可能性があります

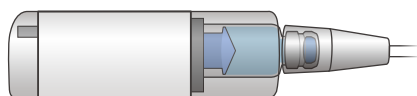
**上記のようなことが生じた場合は、  
医療機関へ連絡してください。**

## トラブル事例

- 貼付テープがはがれていた／デバイスが体から外れていた
  - ・ 待機中／投与中／投与終了後に、貼付テープがはがれていた、あるいはデバイスが外れていた。
- カテーテルが抜けていた／チューブが外れていた
  - ・ 待機中／投与中／投与終了後に、カテーテルが抜けていた、あるいはチューブが外れていた。
- 表示ランプが赤色に点滅又は表示ランプが点滅・点灯していない
  - ・ 表示ランプが赤色に点滅している。



- ・ デバイスの電源起動から投与完了までの間に表示ランプが点滅・点灯しておらず、ガスケットも途中で止まっている。



- 投与中もしくは投与終了後に薬液が漏れていた
  - ・ 投与中に、デバイスまたは穿刺部位から薬液が漏れている。
  - ・ 投与終了後、表示ランプは正常に投与完了を示している（緑色に点灯）が、デバイスから液滴が漏れていた。
  - ・ 本体に破損やひびが見られる。



## 対処法

薬液が投与できていない可能性がありますので、医療機関に連絡してください。

デバイスの取り外しは医療機関からの指示のもと、注意して行ってください。

# デバイスの使用中および保管方法の注意事項

## 待機時および薬液投与時

- 入浴、シャワー、サウナなどは避けてください。また、水などの液体で濡らさないようにしてください。
  - 貼付部位の近くに、クリーム、ローション、オイルなどの外用剤を塗らないようにしてください。貼付が弱くなり、デバイスが脱落する可能性があります。
  - ローション、日焼け止め、虫除けなどを使用した後は、デバイスに触れる前に良く手を洗ってください。
  - 投与が完了するまでデバイスを腹部からはがさないでください。
- 
- 本体に強い衝撃を与えたり、圧力をかけたりしないでください。
  - 運動や屈伸によって、デバイスを大きく移動させたり、引っ張られたりしないようにしてください。
  - デバイスは服の中にしまい、直射日光が当たらないようにしてください。
  - 外気温5～40℃の環境下で使用してください。
  - 本体の故障が発生した場合、本体の温度が上昇することがあります。やけどのおそれがあるため、本体の温度に異常を感じたときは、デバイスを取り外してください。[外気温40℃の環境下では、本体の最高温度が42℃となる可能性があります。]
  - 振動、ちりやほこり、噴霧、可燃性ガス、腐食性ガス(硫化水素ガス、塩素ガス等)などが発生する場所で使用しないでください。
  - 本体に液体がかかった場合または汚れが付着した場合は、乾いた柔らかい布などで付着物をよく拭き取ってください。水洗いや、シンナーなどの有機溶剤は使用しないでください。

- 飛行機内や登山など、気圧が変動する環境下で使用しないでください。
- デバイス装着中に以下の医療機器の使用が優先される場合には、デバイスを取り外してください。  
やむを得ず、デバイスを装着したまま以下の医療機器を使用する場合は、直ちに医療機関へご連絡ください。デバイスが正常に動作しない可能性があります。  
・X線撮影装置、CTスキャナー、放射線治療（X線・重粒子線治療法・中粒子線治療法などを含む）、AED、MRI装置、磁気治療器、マイクロ波治療器などの医療機器
- ボディスキャナー、X線によるセキュリティー検査を通らないようにしてください。
- 変電施設や永久磁石に近づかないようにしてください。
- デバイスを起動してから約27時間後に薬液の投与が開始されることから、起動後26～29時間の間はデバイスの稼働状態の確認を妨げるような運動や運転などは避け、安静に過ごすようにしてください。

## 投与終了後

- 取り外し時は、デバイスを少しずつはがすようにしてください。
- 投与終了後の1時間は、運転・負荷のかかる運動は避けてください。

## 保管および返却時

- デバイスを分解したり、改造したりしないでください。
- 取り外し後のデバイスは、こどもの手の届かないところに保管してください。

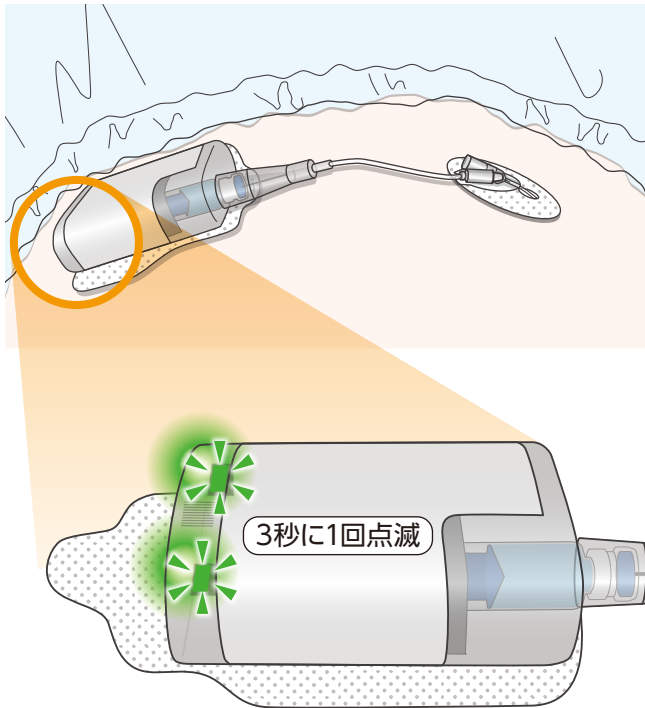
# 使用方法

## 待機時

- 医療機関からの配布物を確認する。
  - 返却用袋
  - 本リーフレット

**注意**・配布物に不足がある場合は医療機関へ連絡してください。

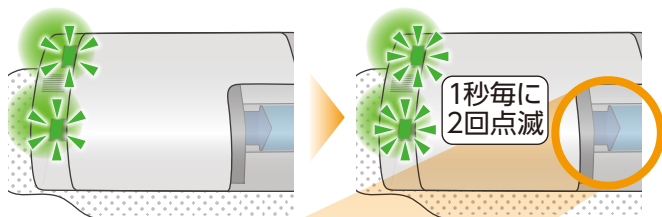
- 薬液の投与が開始されるまで本体の表示ランプは緑色に点滅する。





## 薬液投与開始

- 医療機関で本体に電源を入れてから約27時間後、表示ランプが緑色の早い点滅(1秒毎に2回)に切り替わり、薬液の投与が開始される。

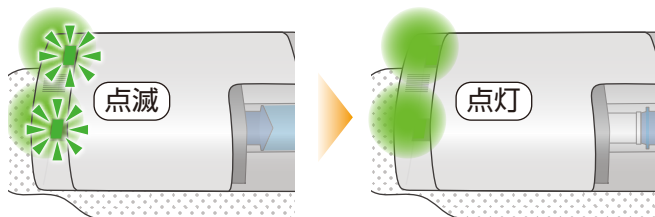


- 投与が開始されると、少しずつガスケットが矢印➡の方向に進みます。
- 投与時間は約24分です。

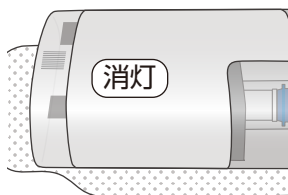
## 薬液投与終了

- 薬液投与が終了すると表示ランプが緑色の点滅から緑色の点灯に変わる。

- 医療機関で電源を入れた時刻より約27時間後から、30分毎に表示ランプが緑色の点灯に変わったかを確認してください。



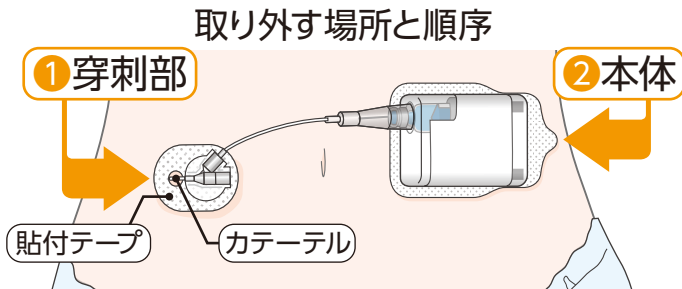
- 緑色に点灯した表示ランプは、投与終了後約6時間で消灯します。



# 使用方法

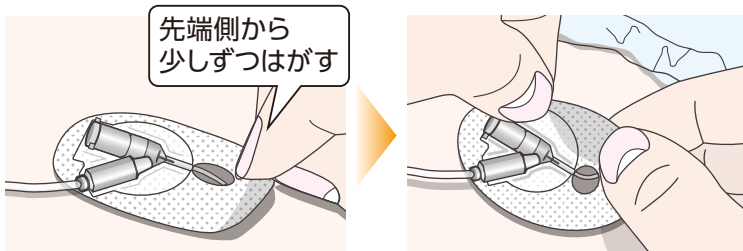
## 取り外し

- デバイスの取り外し時、貼付テープは少しずつはがすようにしてください。
- 薬液自動投与終了が確認できていれば、表示ランプ消灯前にデバイスを取り外しても問題ありません。

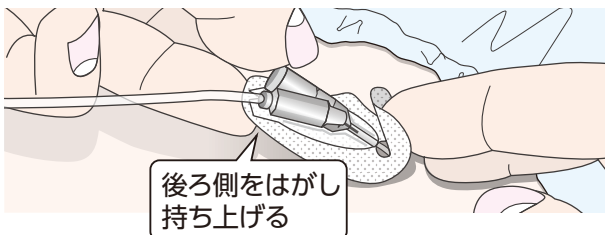


## 詳細な取り外し手順

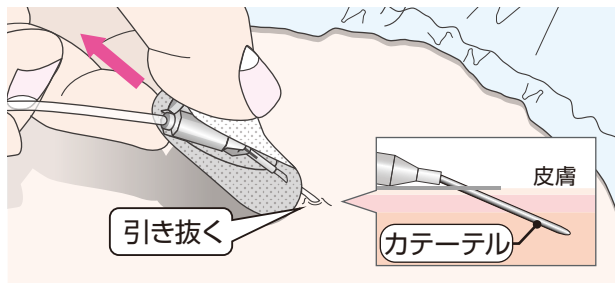
- 1 手をよく洗い、穿刺部の先端側から貼付テープをていねいにはがす。



- 2 後ろ側の貼付テープもはがす。

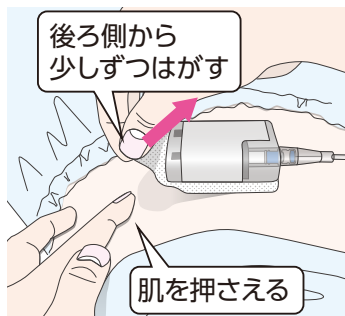


### 3 カテーテルを腹部から引き抜く。

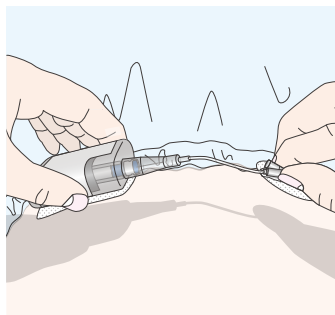


- 出血が認められた場合は、アルコール綿または清潔なガーゼか布で出血部位を3～5分ほど圧迫し、止血をしてください。

### 4 本体の後ろ側から貼付テープをていねいにはがす。



### 5 デバイスを腹部から取り外す。



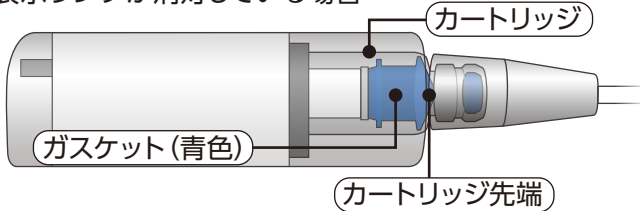
デバイスを腹部から取り外した状態

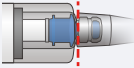
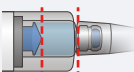
(12ページへ続く)

# 使用方法 (続き)

6 ガasketがカートリッジ先端まで移動していることを確認する。

- 表示ランプが消灯している場合



ガスケット	状態
 <p>カートリッジ先端まで ガスケットが進んでいる</p>	正常に終了しています。
 <p>カートリッジ先端と ガスケットの間に すき間がある</p>	故障 医療機関に連絡してください。

## 取り外し後

- 取り外し後のデバイスは返却用袋に入れて、次回通院時に持参する。
- こどもの手の届かないところに保管する。

連絡先 (医師・薬剤師等)

緊急連絡先

【監修】 鶴谷 純司 先生 (昭和大学先端がん治療研究所 所長/教授)

GLS1064A23C  
2023年3月作成